

1 派遣期日 平成28年10月29日(土)

2 研修先 筑波大学附属小学校  
東京都文教区大塚3-29-1  
<http://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp/>

### 3 研修内容

テーマ 筑波流 アクティブ・ラーニングのすすめ  
ー「深い学び」について考えるー

#### ・公開授業①

1年 「くり下がりのあるひき算」 授業者：大野 桂 先生

#### ・公開授業②

4年 「面積」 授業者：夏坂 哲志 先生

#### ・講演 「深い学び」のある算数授業

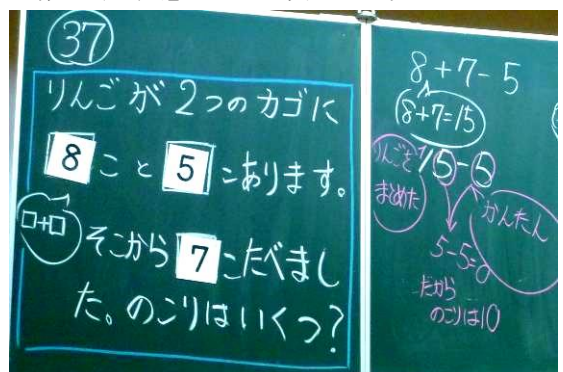
山本 良和 先生

### 4 研修を通して学んだこと

「筑波流アクティブラーニング」がどのようなものか興味をもち、本研修会に参加した。今回を含め、筑波大学附属小学校算数科の3人の先生方の授業を見せていただいたが、どの先生の授業にも共通点があることに気付いた。それは、児童主体の授業展開となっているということである。児童がつぶやいた言葉を拾い、それを全体で共有をしていた。「教師はとぼけるのが仕事」とまで言っていた先生もあり、児童を揺さぶる問い返しをすることで理解を深いものにしていた。また、半分くらいの児童が手を挙げて、意見をすごく言いたそうにしている場面では、あえてそれを近くの人と確認の時間を取り、理解の共有を図っていた。このような児童との巧みな駆け引きのような関わり方こそが「筑波流アクティブラーニング」の中核なのだと考えた。

#### 《授業から》

まず、1年生の授業を見てはじめに思ったことは「本当に1年生なのか」であった。1年生の授業とは思えない程に板書に「式」がたくさん出てきており、さらに式の中の数字が何を表しているのかを多くの児童が説明していた。これまでも数が表す意味を日頃から考えてきたからこそできることだと思った。この授業は、□に5・7・8の数字のどれかを当てはめ、3つの数を使った複合的な式を作るというものだった。先生は途中、「分かった人」と聞くと、児童は勢いよく手を挙げた。ここで先生は「じゃあノートに式を書いてみよう。」と言った。このやりとりがすばらしいと感じた。児童の意欲を引き出し、エネルギーが高まった所で次の活動をさせるということが自然と行われて



〈1年生 授業板書〉

いた。中盤の $7+5-8$ の式から1年生は初めて「くり下がりのあるひき算」に出会った。教科書通りではなく、児童にとって自然と出会うようによく考えられていた。

4年生の授業では、導入が生活の中の話で面白く、児童が食いついて考えていた。考えている内に児童から疑問が生まれて、それが課題となっており、導入の工夫を感じた。児童の考えを拾い上げていくと規則性らしいものが見えてきて、それが本当に成り立つか確かめていくという流れで授業が進んでいった。児童から出そのような意見を事前にしっかりと予想できていることがうかがえた。授業の終末では、今回の課題から条件が変わった場合はどうなるかと投げかけ、発展的な学習への意欲を高めていた。



〈4年生 授業板書〉

### 《分科会から》

- ・ 具体物を見せるのが早かった（また、遅かった）。
- ・ 一人の考えを全員に広げようとするのは無理があった。
- ・ ペアでの話合いのエネルギーを高めるために、ノートに一言書かせた方が良かった。
- ・ 共有したい場面で一部の児童とばかり会話をしていた。
- ・ 展開についていけず、置いていかれた児童がいた。
- ・ 子供たちが一番苦労すると思われる所で話合いをするとよかった。

授業者への意見は下にまとめたとおりである。

厳しい意見もたくさん出たが、授業者の先生も今回の授業に対しての熱い思いや考えを話していた。児童が目標を達成するために協議を重ね、さらに授業をよりよいものにしていこうという姿勢に感心した。

また、この協議の中の意見は全て児童目線のものであった。教師が進めやすいように授業を組み立てるのではなく、児童全員がどうやったら理解していけるかということを中心に、話合いが行われていた。

### 《今後の授業に生かすために》

研修会で、特に印象に残った言葉がある。それは、「教師の目線から見ていては、子供の深い学びにはならない」と「深い学びができたときは感動が生まれる」である。自分が行ってきた今までの授業実践を振り返ったとき、果たして子供目線から教材研究や見取りが行えていたのだろうかと考えてしまった。このように振り返りができたことは自分にとって良い機会となった。研修会で学んだことを踏まえ、児童主体の授業展開を行うために「今後積極的に実践していくこと」を挙げる。

- 児童が自ら課題を見つけられるような仕掛けを用意すること（導入の工夫）
- 児童がエネルギーを高めた所で、理解の共有を図ること（共有のコーディネート）
- 具体物を最も効果的な場面で出すこと（学びを深める教材研究）

これらの取り組みを日頃の授業の中に加えていく。そして、上手く児童の主体性を引き出し、積極的な学びを行うことができるように今後の授業研究に励んでいく。